

ありい をのりこえよう

解ゆで 惣中巻 び 坂道まわの人

三百六十回人し

ふくむくをのば 百十三人

とや二そす

注意 注意 とアナウニス 不 読する

山 種の花をま

お水 上さんとうね

と 向レことを言、てい

ありさつも

ありさし 氣をうけて

がき

とうやうて 氣をうけての

ありいのき

とやううた すれが ほんのか

言うてりる 平人も 知ら ずん と思う

ありさうの 終り也

とうて ありうた 氣をうけて

がき

月とんとや人が ちのちうた ちうてい

言つていよ本人に

知らるゝと思ふ

太陽の光を少しづつへまかせとか

かもしゆらば早あかりして

十一月にはととか

それでも今年ばかりいし

このあつさはひとつの災難の辰

丁度その時にいあわせとていふ

向にうらやわかうるゝの和ん

よくあつたことばかりである

よいことだつてある

よくあつたの次はもうあつた

よいことがある

足利にやぶしてりさぬい

2024
8/6